

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「グループホーム白帆台は、入居者のみなさまが楽しく、仲良く、安心して、暮らすことのできる家です。」であり、玄関や事務所に提示し、またミーティング時に話し合うなどして、意識づけしサービスを提供しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や外出時には出会った地域の方々や挨拶や会話を楽しんだり、町会主催の文化祭で作品を出品したり、見守り隊として小学生のパトロールに参加。地域保育園との交流。また、ホームを知って頂くため、便りを毎月、町会に回覧している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事で出品・見守り隊への参加・白帆台町会いきいきサロン月2回参加。夏にはバーベキューを開催し、地域の方にも参加を呼びかけ参加して頂いている。その中で、認知症の人の理解や支援方法を知って頂けるよう努力しているが、理解は難しく今後も継続していく必要あり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2か月に1回)に運営推進会議を開催し、その都度ホームの状況報告・勉強会実施。委員・職員・利用者・利用者家族にも参加頂き、意見交換を行い、サービスの向上に繋げるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や町内の同業者らで作られた協議会への参加していただく事で、事業所の実状や取り組みを伝えられる機会を設けている。また、町の担当者主催の勉強会への参加や来苑時の意見交換などにおいても相互の協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加や月1度のミーティング、日々の話し合いの中で、身体拘束なく安全に過ごして頂けるよう、身体拘束に対し正しい理解をもてる機会を設けている。また、玄関や出入り口の施錠を行わず利用者の行動も拘束を行わないよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や月1度のミーティング、カンファレンス、日々の話し合いの中で高齢者虐待に対し正しい理解できるような機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、1名の入居者の方が成年後見制度を利用されています。同制度について職員が学ぶ機会が設けられていないのが現状。今後は機会を設けて理解を深めていけるよう努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、事前に家族立ち合いのもと、十分に説明・理解・納得して頂けるよう努めている。また、意見箱を設置する等、家族が気軽に不安や疑問を伝えられるような環境を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の場における利用者の意見やご家族の意見をいち早くキャッチし、職員へ浸透反映させるように努めている。また、運営推進会議等においても外部者との意見交換を行い運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、朝礼に加えて常時、職員の意見や提案に耳を傾け、職員それぞれが工夫したことを現場で反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に来苑し、現場の状態や各職員の勤務状況の把握に努め、状況に合わせて研修に参加できる機会を設けている。また、チャレンジカードを用いて、質の向上・個々のレベル向上ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の勤務状態から、職員1人1人のケアの質や力量を把握するよう努め、状況に合わせて研修に参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にあるグループホームと協力し、勉強会や事例検討会・モデル行動推進委員会を立ち上げるなど、同業者と交流する機会を積極的に設け、サービスの向上に繋げるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後、家族からの情報、本人からの要望等を聞き少しでも早く安心して過ごしていただけるよう傾聴と受容に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来苑しやすい雰囲気に努め家族の思いや困っていること、要望等に耳を傾け応じられるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との話の中から「その時」まず求められているものを把握し、それを最優先に提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、ご本人の出来ること、したいことをみつけ日課として頂き、その際には感謝の気持ちを伝え、お互いに協力していけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を十分考慮し、本人・ご家族・職員で相談・共有しながら共に支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の馴染みの店や美容院などの外出支援をしている。ご家族・親戚・友人の面会、電話や手紙等のやりとりなど関係が継続できるよう取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は把握し、座席の配置を工夫したり関わり合える支援を行い、入居者同士が安心してくつろげる空間を提供できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの相談を受けたり、必要に応じて受け入れ先を探す等の支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動・言動・表情などから、ゆつくりと話を聴き本当の思いを把握できるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、本人との会話の中から、これまでの暮らし方・生活環境等、把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・介護記録・申し送り等で職員間の情報の共有し日々の変化に気付けるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のモニタリング・ケアカンファレンス等、その度話し合いをし取り組みケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は日々の様子、ケアの実施、気づき等を記入し、変化のあった時は申し送り時に伝達し全体で把握できるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度状況の変化を把握し、状況に寄ってはサービスの内容を変更するなど、柔軟な対応が出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事や催し物には出来るだけ参加し、ご本人のいままでの馴染みの環境を支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を確認し、かかりつけ医を決めている。通院では基本家族が付き添うが状況に応じて職員が付き添うこともある。受診結果は家族を通して記録・申し送り職員間で情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化を看護師に連絡相談し、往診時に適切な情報を医師に報告できるよう話し合いをしている。日々の疑問や対処法について勉強会を開いてもらい関わりに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は職員は様子の確認に行っている。病院関係者と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	月1回、看護師より終末期に向けた看取りの勉強会をしている。家族と密に連絡をとり終末期を迎えた時のことなど、話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の方から定期的に救急法・応急手当の講習会に参加して実践練習を行っている。また、看護師から急変時の対応やその都度勉強会をしている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の対応マニュアルを周知するよう目を通して。緊急時持ち出し用ファイルに緊急時・行方不明時の資料の作成をし体制を整えてある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関や地域の介護、老人保健施設などの機関とは密に連絡をとるなどして、支援体制が確保されています。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤者は各フロア1名ずつ配置されており、緊急時には近隣の職員もすぐに駆けつけることができるよう緊急時連絡網も備えている。協力医療機関の夜勤支援体制も整っており、利用者の容態の変化が予想される時は、事前に職員間で情報の共有を図っている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施し、結果や注意事項をミーティング等で報告、話し合いをし全員が対応できるように努めています。今後も地域との協力を密に取り体制を図っています。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	緊急時に備え、食料や飲料水等を備蓄しています。定期的に点検も実施。万一の場合は防災マニュアルに沿って行動が取れるようになっています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を傷つけないように言葉使いや口調に気をつけ対応しています。皆の前で話せない様子の時は場所を変えて話を傾聴したり、排泄や入浴など声かけ対応にも十分配慮し利用者の思いプライバシーを尊重するよう心がけています。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者の言葉を傾聴する姿勢を持ち、表情や言葉から思いをくみ取り、声かけし入居者が自分で意思決定できる場面をつくるよう支援しています。散歩・買い物・ドライブなどの外出も本人の希望にて支援しています。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	洗濯干しや洗濯たみ、掃除や花の水やりなども含めて、生活全般ひとり一人のペースや体調をみて、ご本人のペースを大切にできるよう心がけながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に2度出張理容を依頼。入浴時に髭剃り、爪切りなどを行っています。衣服は、ご本人が選択し着用されています。着こなしのできない方は職員が季節や気温等を考慮し着用。その方の好みも配慮しています。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者ができる範囲で、食材を切ったり・調理・盛り付け・皿洗い・食器拭き・下膳等を職員と一緒に楽しく行っています。食事も職員と食卓を囲み楽しい雰囲気の中支援しています。食事中はリラックスできるよう音楽を流しています。食事前は嚥下体操を行っています。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量・水分補給量のチェックを通し、栄養状態の把握を努めています。利用者の嗜好や咀嚼・嚥下状態に合わせて刻み食・トロミなど形態の配慮をしています。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ誘導にて口腔ケアを行っています。週に2回の義歯をポリドントにつけている。治療の必要な方には歯科医の往診も行っています。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて1日の排泄パターンを把握し声かけトイレに誘導を行っています。自立されている方には、様子を見て状況に応じて支援しています。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給・体操・食材など配慮している。排泄時には出やすい体勢に整え、腹部マッサージなど自然排便に心がけている。排便状態に応じ医師や看護師に相談し排便コントロールを行っている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に応じ毎日でも入浴できる体制をとっている。入浴の順番や同性介助への配慮。拒否される方の声かけやタイミングも工夫して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の睡眠の様子・体調面を把握し、就寝時の明るさ・音・室温・臥床時間など環境に配慮しています。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	バイタル測定にて血圧の変動・排便状態を確認し服薬をして頂いている。異変時には医師・看護師に相談し指示を受けている。服薬困難の方にはトロミにしている。服薬拒否の方には、環境を変えるなどして服薬支援に努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のしたい事、出来る事を見極め職員と共に家事作業・歌・手工芸・散歩など支援している。季節を感じれるようにドライブ等で花見や食事会、地域の行事、小学生の見守り隊など張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて個別、少人数にて散歩、ドライブ、食事会など外出支援している。天気の良い日は近くの公園に出向いたり住宅街を散歩し、出会う近隣の方と挨拶を交わしている。家族様との外出・外泊も希望にて支援しています。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理が困難な方が多い為、ほとんどの方が所持していない。ご本人が所持されている方も金額は多くなく必要に応じて買い物支援をしています。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望にて電話のとりつぎ、お手紙や季節の挨拶状が届いた時はお渡し、お返事等の支援をしています。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、ボードには皆で作った折り紙など飾りつけたりし季節感を取り入れています。毎日の清掃、汚れのある時はその度清掃し整理整頓に心がけています。換気、室温の管理は細目に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの場所は気の合った方と談話できる所や外の景色が見える場所や廊下の端にてゆっくりと話しの出来る所に設置している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた物や馴染みの物を置き、居心地の良い自分の部屋として過ごせるよう工夫している。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア・居室・廊下・浴室・トイレには手すりを設置し、歩行時に妨げとなるものは無いか考慮し、家具を配置している。シルバーカーや手すり等を利用し歩行維持をして頂いている。		